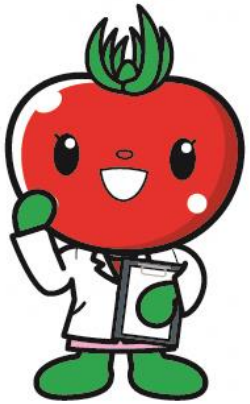
北本市の発達障害児支援



北本市健康推進部
健康づくり課
保健予防担当　川西恵子

北本市の紹介

- 人口　66,104人（令和2年9月1日）
- 出生数　343人　うち低出生体重児　31人

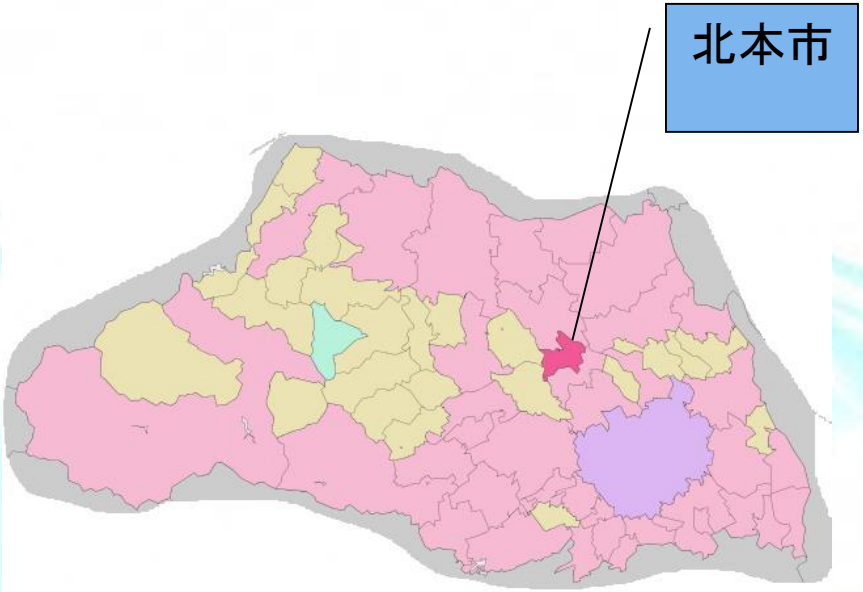
  （平成30年）
- 合計特殊出生率

  北本市　1.04

  埼玉県　1.42

  全国　　1.44

（平成30年度、資料：埼玉県）



発達障害児支援の考え方

発達支援

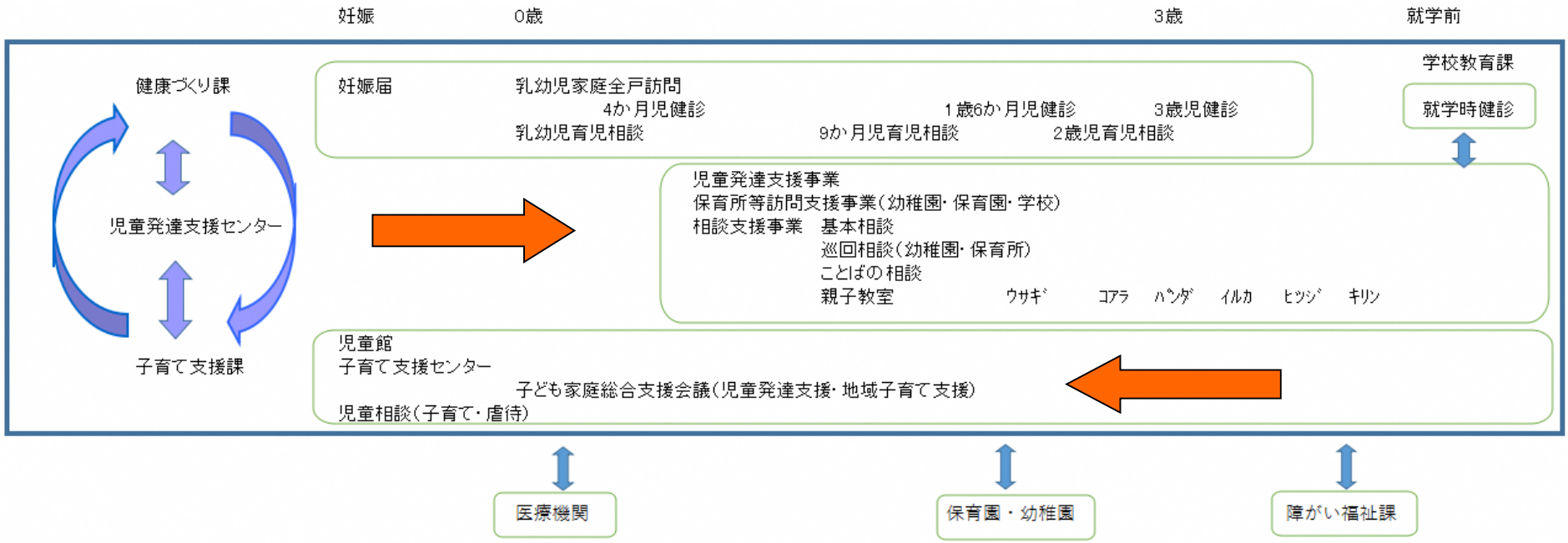
発達の特性を知り、発達を促す

子育て支援

安心して育つ環境を整える

※子育て支援が土台となり発達支援が行われます。

乳幼児期相談・発達支援の全体図



妊娠期から産後の支援

- 妊娠届出時に全ての妊婦と面接を実施
- マタニティクラス
- 産前サポート・産後ケア事業
- 出生届出時に面接を実施
- 妊娠期からの虐待予防強化事業

必要に応じて
支援プラン作成

乳児期の支援

- 乳児家庭全戸訪問事業

  対象者：生後４か月までの乳児がいるすべての家庭

  訪問者：保健師もしくは助産師が訪問

  ①乳児やその保護者の心身の様子及び養育環境の把握

  ②育児に関する不安や悩みの傾聴、相談

  ③子育て支援に関する情報提供

  ④支援が必要な家庭に対する提供サービスの検討、関係機関との連絡調整

  訪問率　98.2%

  （令和元年度）

乳児期の支援

- ４か月児健診
  受診率　98.4%
  （令和元年度）
- ９か月児育児相談

乳児期から幼児期の支援

- １歳６か月児健診
  受診率94.7%
- ２歳児育児相談
- 親子教室（コアラ）
- 3歳児健診
  受診率92.6%
- 乳幼児育児相談

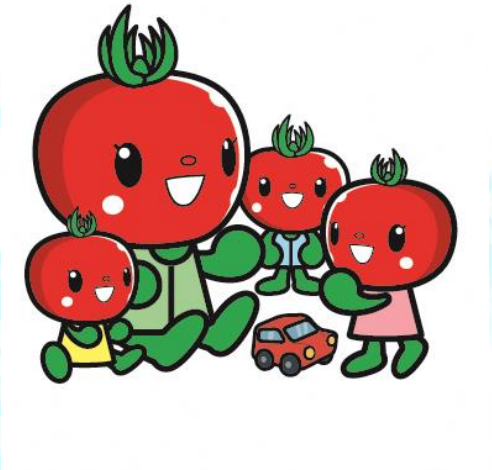
（受診率は令和元年度実績）

２歳児育児相談

- 1歳6か月児健診の結果に基づき、発達や養育に関する個別相談を、自由遊びの中で実施
- 従事者　保健師、心理相談員、保育士（児童発達支援センター）
- 10回　32人　（令和元年度）
- 子どもの発達上の課題を保健師が整理する
- 保護者の気づきを支援する
- 親子教室や児童発達支援事業の利用を勧める
- 保護者が利用を選択しないことも保証する

親子教室（コアラ）

- 対象月齢　1歳6か月児から3歳まで
- 定員　親子８組
- 場所　児童発達支援センター
- 回数　月2回
- スタッフ　児童発達支援センター
  （保育士、言語聴覚士、
  作業療法士、心理相談員）
  子育て支援課（児童相談員）
  健康づくり課（保健師）
- 内容　親子遊び（設定と自由遊び）



保護者との関わり方について

①発達上の特性に気づかない段階

- 会うたびに子どもや保護者に声をかけ、関係づくりをする
- 保護者の個性とその家族のニーズを把握する
- 保護者の気づきを支援する

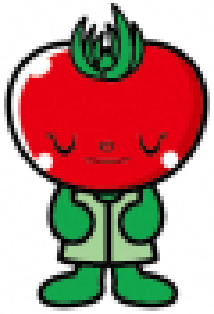
保護者との関わり方について

②発達上の特性に気づいた段階

- 保護者の受容状況を確認したうえで支援する
- 保護者の困り感を引き出すような声かけをする
- 新しい支援へつなぐ時は、保護者が理解できるように具体的に説明する
- 保護者が支援を受け入れようという気持ちになるまで待つ

保護者との関わり方について

③支援継続の段階

- 希望や必要に応じて相談に乗る
- 保護者と一緒に子どもの成長した点について喜びをわかちあう
- 子どもの発達に対する保護者の理解を深める
- 地域の多職種との連携、次の機会につなげる

ご清聴ありがとうございました